

高校生の謝罪

国語班 岩見貴大 諏訪文香
武井貴志 三原圭都

1. はじめに

高校生の間に使われる言葉の変遷もあり、謝罪の言葉が原因でトラブルが起こることが多い。私たちはそこで、そういった事例を回避するためには、どのような謝り方をすれば良いか興味を持った。そこで、謝罪によって誠意を示したい場合、どのような態度・言葉が適しているかを模索することにした。

2. 仮説

高校生は謝罪の時には「すみません」という言葉を多用しがちであるために、「すみません」では誠意をみせられないケースも出てくると仮定した。その場合には、私たちは「すみません」以外の適切な謝罪の言葉がある、と仮定した。

3. アンケート①

以下のような2種類のアンケートを本校2年生160人を対象に実施し考察した。

- (1) 現状として、若い世代が使っている謝罪の言葉を知るために、それらがどのような使われ方をしているか
- (2) トラブルの原因となる話し手の気持ちを知るために、謝罪に使われる言葉が相手にどのような印象をあたえるか

これらのアンケートによって、謝る相手と用いる謝罪の言葉の使用頻度の関係と、高校生が不快に感じる、または感じられる謝罪文句について調査した。

4. アンケートの結果・考察

「すみません」は目上の人や他人に使っていることが多く、比較的誠意を表しやすく、かつ使いやすい言葉と意識されている。

また、「ごめん」という言葉は友達や目下の相手、家族に使っている場合が多く、高校生にとってもっとも意味の軽い言葉である。

これらの結果から、親密な関係になるほど軽い謝罪となっていることがわかる。このことがトラブルにつながるのではないかと私たちは考えた。

5. アンケート②

具体的にどのような謝罪がトラブルを招くのかを知るために、不快に思う謝罪の言葉についてのアンケートを本校2年生160人を対象に実施し考察した。

6. アンケートの結果・考察

面倒そうに「ごめん」と言われたり、話を聞いているのかわからない態度であったり、「本当に謝っているのかわからない」「謝罪の意思が伝わらない」といった場合、不快を感じる人が多かった。

このことから、どのような言葉であっても、声色や態度によっては、相手に不快感を与えてしまうと考えた。

つまり、謝罪の際にトラブルを起こさないためには、誠意を示す態度(相手の目を見て話す、安易に「ごめん」と言わない)が必要である。

7. まとめ

高校生が日常的に用いる「ごめん」などの謝罪は潜在的な意識の中で意味の軽いものと捉えられており、いいかげんな態度で使ってしまうと軽薄に見えてしまう。謝罪の際、相手に誠意を示したい場合は、態度で不快感を与えないよう、細心の注意を払うことが必要である。

今後の課題は、相手の立場に応じて、適切な謝罪の態度を模索していくことである。

8. 参考文献

日本語の配慮表現の多様性 ―歴史的変化と地理的・社会的変異―
野田 尚史 編